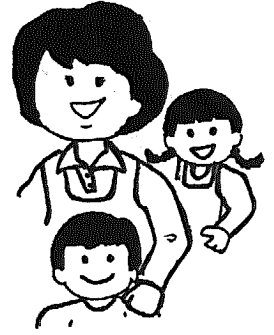


四十年の写真歴



長谷川四郎さん(興野)

長谷川四郎さん(興野、六十四歳)が初めてカメラを手にしたのが昭和十三年。カメラは「パールのツト」という今のコニカの元祖で

した。翌十四年に軍隊に入隊され戦争を過ごし、ようやく戦後になつて本格的に写真を撮り始めました。その写真の中には、黒埼中体育館の建設(昭和二十七年)写真、浄水場の建設(昭和三十三年)役場火事(昭和三十五年)や新潟国体(昭和三十九年)などがあり、たいへん貴重です。

また、今年の八月に出版された「大野町の今昔」(広報一九一号)でも、著者の宮田栄門さんに協力し、多くの写真を提供されました。

現在も、光友倶楽部という写真サークルに所属し、パチ、パチやっています。この光友クラブ、結成は昭和二十六年の一月で、もう三十年も続いているサークルです。おそろく本町のサークルでもっとも古いものでしょう。

さて、お話を伺ってみましょう。

「なにを主に撮られますか。長谷川「風景ですね。最近では、新幹線の建設工事ですか、夕焼けとか。」

「一月にどのくらい?」

長谷川「正直言つて、量は多くないんです。写真よりもカメラに興味があつて。機械が好きなんです。」

「カメラを多数お持ちですね。長谷川「今、七台ありますが、一度も光を通してないものもあるんですよ。」

▲長谷川さん



「今までにどのようなカメラを使われましたか。」

長谷川「リコフレックスの6X6、ロールコンタ、エルモ、キャノン、ニコン、あとは忘れまして。ニコンの製造ナンバの1をもっています。これは手放せません。」

「撮影旅行によく行かれるとか。長谷川「そうよくちよくではありませんが、今年は木曾路へ、去年は白川郷(岐阜県)へ行きました。」

「グループですか。長谷川「いいえ、一人です。私は一日に何十キロも歩きますから。」

「マラソンも毎日してますよね。長谷川「はい。一日に体育館を六十周してます。」

「カメラとマラソンで楽しい日々ですか。」

長谷川「笑そうですね。まあ、一にカメラ、二にマラソンですね。」

長谷川さんは、十月十八日のシードマラソン大会(寺泊町)で六十代の部で四位、十一月十五日の全通新潟地区マラソン大会でも最高齢者として参加しています。マラソンで体を鍛え、カメラで美を追う。長谷川さんの「青春」は今、まっ盛り。

県ジュニア美術

展に多数入選

今年の秋の「第十二回新潟ジュニア美術展」に左記の町内の小、中学生十二名が奨励賞を受賞しました。

- 絵画の部
- 大野貴博 (大野小一年)
 - 高橋康次郎 (大野小一年)
 - 星野裕樹 (大野小二年)
 - 山田雅明 (大野小二年)
 - 阿部隆憲 (大野小四年)
 - 本間拓男 (大野小六年)
 - 大滝守 (立仏小一年)
 - 川上俊之 (立仏小三年)
 - 佐藤真理子 (木場小四年)
 - 高橋直美 (木場小六年)
 - 高橋志保子 (黒埼中三年)
 - デザイン部の 永井次郎 (木場小二年)



東北電力㈱は、明るく住みよい町づくりにと、防犯灯五基を町へ寄贈。
黒埼町婦人会が、文化祭のバザーの売上金三万円を、図書費にと寄附。

作品・意見を募集

街かどでは、皆さんの作品(絵画、写真、イラスト、短歌、俳句など)や日ごろ感じられている意見を募集しています。

また、作品や意見はあるがどうも、「と思われている人は連絡してください。広報編集者が取材に行きます。原則として必ず取りあげますので協力をお願いします。投稿、連絡先

黒埼町役場 企画調整課
黒埼町大野二八四二一
電話 七二三〇〇